

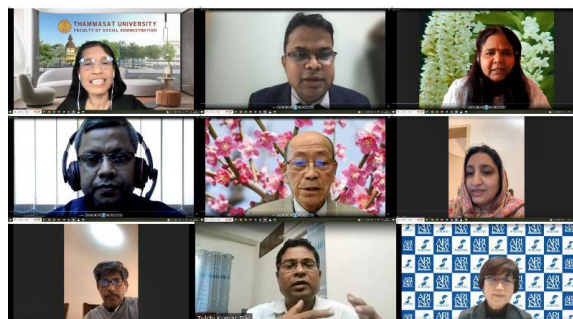
第7回国際学術フォーラムを開催しました！

2月9日に、アジア国際社会福祉研究所は第7回国際学術フォーラムをオンライン開催しました。テーマは「国際ソーシャルワーク教育は何を教えているのか？何を教えるべきなのか？」でした。24 の国・地域より 180 名以上の事前登録があり、常時おおよそ 60 名以上の参加がありました。¹

弊所の長谷川匡俊・最高顧問と戸塚法子・所長の挨拶後、松尾加奈・上席研究員が国際ソーシャルワーク・カリキュラムについてのオンライン調査結果と本フォーラムの枠組みを説明しました。それに続き、タイ(W.ポンポクシン博士、タマサート大学)、バングラデシュ(K.パウル助教ら、シャジャイ科学技術大学)、スリランカ(V.ヴァスデヴァン・国立社会開発機関訓練所長)、マレーシア(M.I.アリ博士、マレーシア工科大学)、パキスタン(M.ジャファー博士ら、バハワルプール・イスラミア大学)が登壇しました。その後、参加者とのディスカッションを経て、秋元樹・名誉所長が、国際ソーシャルワークについての概念的整理を踏まえ教育への示唆についてコメントしました。

本フォーラムの意義は、第一に、これまであまり注目されてこなかった、アジア圏の複数の国における国際ソーシャルワーク・カリキュラムの実態・事例を共有したことです。第二に、それを越えて、どのような内容や視点が求められるか、についての議論を実質的に開始したことに意義があると考えます。たとえば、各国において、西洋型のソーシャルワークが導入されてきた歴史的背景がありつつ、国際ソーシャルワークの教育がそれらに拠っているだけで良いのか、あるいは新たな国際ソーシャルワーク教育を探求していくのか、大きな分かれ道になることが議論にあがりました。本フォーラムの会議報告録を追って発刊する予定です。

アジア国際社会福祉研究所は、新たな国際ソーシャルワークの理論とその教育のあり方についての研究を進めるとともに、引き続き、世界の人びとと対話してまいります。末筆ながら、本フォーラムの開催にあたりご協力を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



◆アジア国際社会福祉研究所のニュースは当研究所のホームページよりご覧いただけます。

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/asiancenter/>

◆淑徳大学内では S ナビにて月 1 回程度配布されます。

¹ 事後アンケート (n = 35) では、全体的な満足度 (5 点評価) の平均値は 4.3 (SD = 0.9) 点でした。